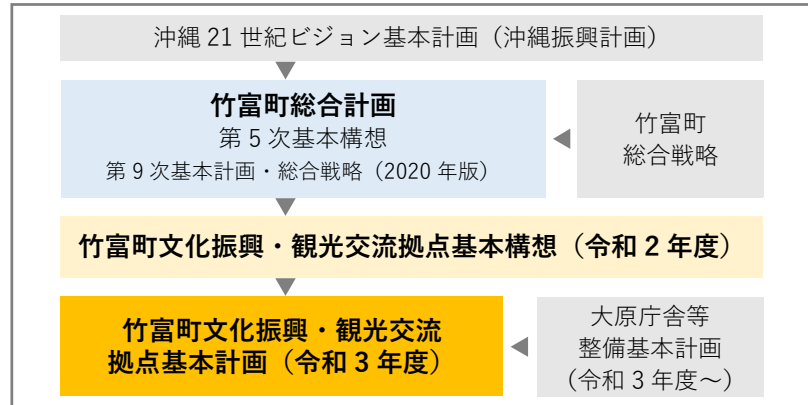


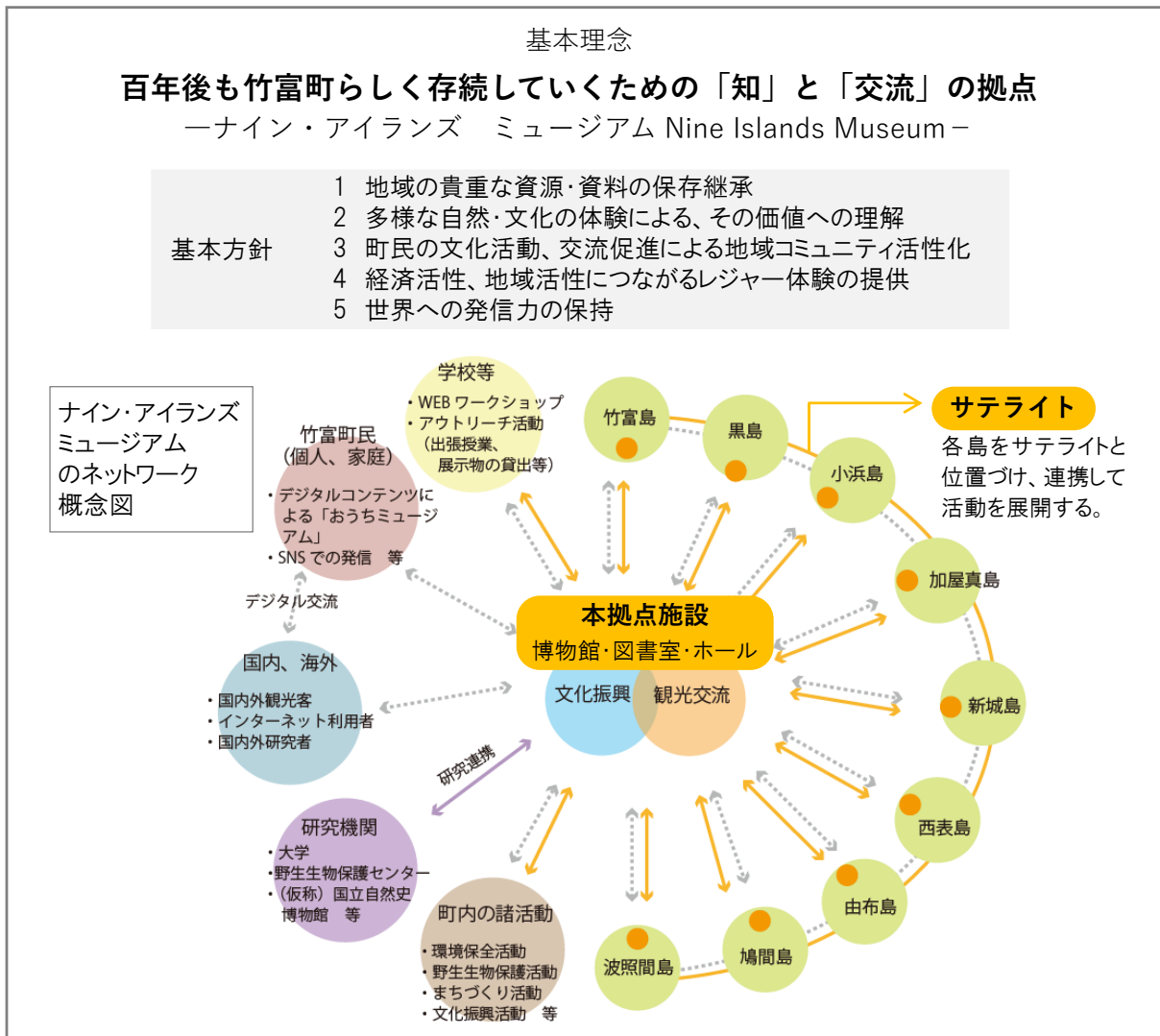
1. 計画の位置づけ

本事業は、竹富町総合計画に基づき、検討が行われたものです。上位・関連計画は下記の通りです。



2. 施設の基本概念と基本方針

町民アンケート等の基礎調査をふまえて検討・協議された「竹富町文化振興・観光拠点基本構想（令和2年度）」において、従来のミュージアムのあり方から脱却した新たな文化振興・観光交流拠点として、下記を本施設の基本概念及び事業の基本方針として位置づけました。基本計画（令和3年度）においては、基本構想に基づきつつ、さらに図書室と町民ホールの機能を大きくし、博物館、図書室、町民ホールの複合施設として、文化振興・観光交流のための多様な活動を行う施設のあり方を検討しました。



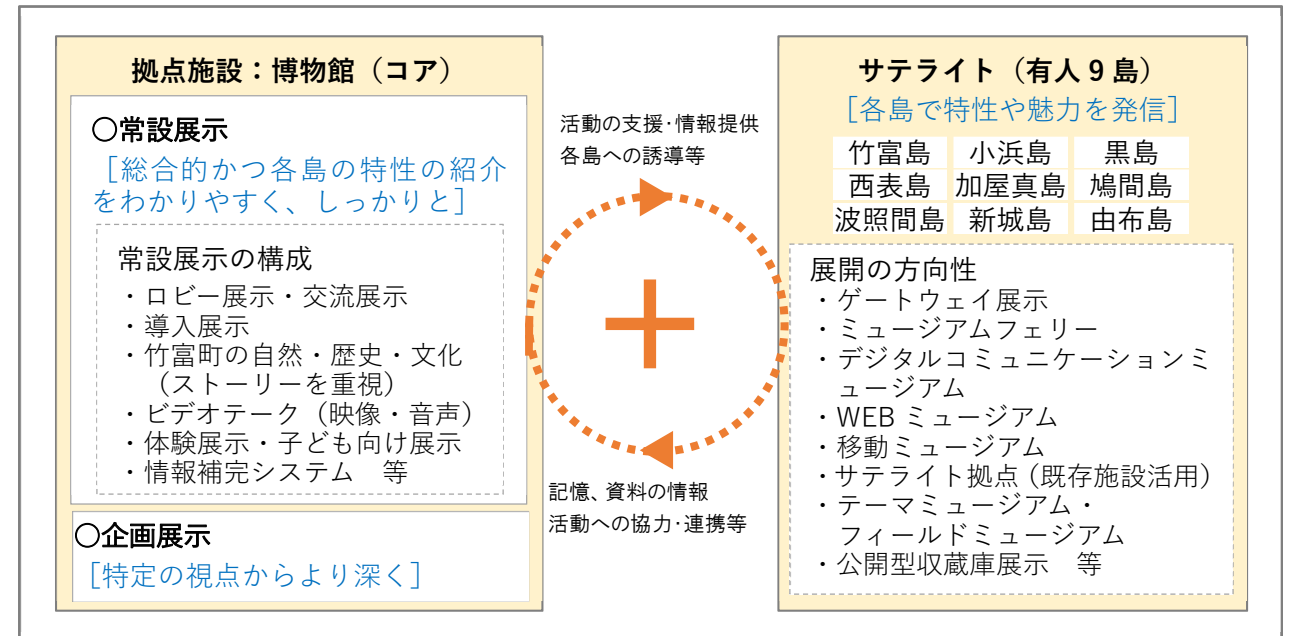
3. 事業活動

本施設の事業活動の概要は下記の通りです。具体的な内容等は、町民の意見の聞き取りや協議等をふまえ、今後詳細を検討・確定します。下記は、基本計画にまとめた主な事業活動と展開場所です。なお、場所は運営者の判断により、活動に応じて様々な展開が考えられます。

事業活動	主な内容	主な展開場所		
		博物館	図書室	ホール
収集保存	・自然、歴史、文化に関する資料の収集と保存（拠点施設/現地保存） ・記憶や継承プログラム、公文書、町史関連資料等の収集と保存 等	○	○	—
調査研究	・収蔵資料及び展示資料等の調査研究、現地調査 ・竹富町に関する基礎的、総合的な学術情報の蓄積 等	○	—	—
展示	・竹富町の自然、歴史、文化等に関する総合的な理解につながる展示（常設展示、企画展示、サテライト展示等） ・拠点（コア）と各島のサテライトがつながり、9島全体で実現される展示 ・デジタルを活用した演出性、参加体験性、双方向性を重視した展示 ・次世代を担う子どもたちを重視した展示 ・町民参加により、竹富町の魅力（記憶、風景、言葉等）が伝わる展示 等	○	—	—
教育普及	・町民や来館者が自ら興味を持ち楽しく学べる活動 ・竹富町の自然、歴史、文化の理解につながる図書等の所蔵・貸出（本拠点施設での貸出、電子図書室、移動図書室等） ・町民ホールを活用した伝統芸能の継承及び多様な文化活動展開 等	○	○	○
交流・観光	・竹富町の魅力の紹介と各島への誘導 ・町民ホールにおける活動等を通じた各島、世代間の交流促進 等	○	—	○
情報発信	・ICT（SNS、デジタルコンテンツ等）を活用した情報発信 ・ビジュアルアイデンティティの構築と積極的なPRの展開 等		○	
連携構築	・町民、地域団体、研究機関等との連携による事業推進体制の強化 等		○	

4. 展示

展示は、拠点施設の博物館（コア）で常設展示、企画展示を行い、各島でサテライト展示を展開します。拠点施設とサテライトは相互に連携・協力し、竹富町全体での活動を展開します。サテライト展示は各島の状況等をふまえてできるところから着手し、長期的・段階的な整備を行います。



5. 展示テーマの構成

展示のテーマの構成は下記の通りです。基本的に拠点施設の博物館の常設展示として展開しますが、サテライトにおいても構成をふまえながら、各島の特性や環境にあわせ、展開を検討します。下表の黄色色の項目は、町民の皆様の協力をいただきながらつくりあげる展示となります。

大テーマ	内容	テーマ展開
無料ゾーン(想定):ロビーやエントランス空間を活用した展示、情報発信		
1 ロビー展示	竹富町の観光情報の案内。各島々の魅力やその時に楽しめるもの・コトを紹介する。	1 ナイン・アイランズ 竹富町
2 交流展示	姉妹町・北海道斜里町、友好都市・長崎県対馬市から寄贈された資料や各地域と竹富町の共通点などを印象的に紹介する。	1 姉妹町・友好都市交流展示
	伝統の技の体験ワークショップや、制作したものの販売等を行うことができるスペース。	2 伝統の継承スペース 「ていーひろば」
有料ゾーン(想定): 壮大な時の流れ(歴史)と、豊かでユニークな竹富町の文化を様々なテーマで紹介する。その中で各島の個性、魅力を伝える。		
3 導入展示「THE BLUE WORLD」	印象的な演出概要映像。竹富町の地理的な特性とそれに起因する魅力を象徴的に紹介する。	1 導入映像 「空に煌めく星、海に輝く私たちの島々」
4 ナイン・アイランズのタイムストリーム	歴史年表を象徴的なシーンを黒潮のように雄大な流れの上で組み合わせ、特徴的な自然、海外や琉球王府、日本等とのつながり、人々の営み、竹富町の今の姿までを俯瞰できるように紹介する。 パノラマ年表と結びつく展示として、竹富町を理解するために重要なテーマを設定し、実物資料とそれに関連する記憶(解説、映像、音声等)や関連資料等を組み合わせ、『ストーリーズ・テーブル』として構成し、わかりやすく紹介する。これらをあわせて、展示室全体に大きな歴史の流れを紹介する立体的・複合的な年表が表現される。全体で15の『ストーリーズ・テーブル』を設定、資料や記憶等の更新、展示替えを行いやすい様式でつくりあげる。将来にわたって、竹富町の町民が主体的に関わり、紹介したいこと・伝えたいこと・残したいことを表現できる展示とする。	1 パノラマ年表「タイム・ストリーム」
		2 黒潮の旅
		3 島立て
		4 集落と御嶽
		5 八重山群雄割拠
		6 琉球王府と蔵元の時代
		7 国際交流の舞台、八重山
		8 人頭税の時代
		9 明和と津波
		10 琉球処分一廃琉置島一
		11 蔵元の廃止と竹富村・竹富町の時代
		12 近代産業の光と闇
		13 戦争とマラリヤ戦いの日々
		14 大観光地・竹富町
		15 新しい時代と竹富町
5 [テーマ展示] 私たちの物語を知るためのキーワード	竹富町の歴史や文化をわかりやすく、そして継承すべき重要な記憶として紹介するため、10のキーワードを設け、資料(実物資料に限らない、レプリカや新規制作したものも含む)と解説、映像、音声等をあわせて紹介する。関連する体験プログラム等も展開できるように、展示そのものを工夫したり、周辺に人がたまることのできるスペースを設ける。	1 海と水
		2 森
		3 星
		4 祈りと祭り、歌と踊り
		5 生業
		6 言葉
		7 結
		8 家・集落
		9 技
		10 船
6 守り伝えたい風景	竹富町民の目線を見た、守り伝えたい風景の写真、映像等を紹介する。観光情報とは異なる、竹富町の人々の営みや記憶とつながった風景(写真、映像等)を持続的に収集し、展示室やデジタルミュージアム等で紹介する。	1 海
		2 森・樹
		3 遺構・建築
		4 暮らし
7 語り継ぐ、私たちの記憶	各島の祭りや伝統行事や、民具の材料となる植物の収集から製作工程等、伝えられる技について、町民の姿・言葉を通して紹介する。また、各島の古老や住民から見た、島の移り変わりについて、町民の姿・言葉を通して紹介する。	1 祭り・伝統行事
		2 伝統の技
		3 島の移り変わり
8 メモリーズテーブル(情報検索テーブル)	拠点施設が収集する資料、写真等のアーカイブを公開する。町史編集時に収集した写真の蓄積のほか、新たに収集される資料や写真の情報、制作する映像等を整理分類し、わかりやすく、かつストーリーが伝わるコンテンツとしてまとめ、公開する。	
9 ともに未来へ	竹富町の子供たちへ、今伝えたい思いを言葉として紹介する。また子どもたちから竹富町を訪れる人々へ、島々を守っていくために大切に考えてほしいこと、訪れる人々から竹富町の人々に伝えたい言葉等を紹介し、ともに未来へ進むためのヒントが溢れる展示とする。	1 未来の竹富町を担う子供たちへ
		2 私たちの島々を守るために
		3 竹富町の人々へ

常設展示室のイメージ



6. 施設規模(想定)

本施設の規模と諸室面積は下記を想定しています。今後さらに整備・維持管理の視点から検討と精査を行い、より効率的な整備・運用を行うことができる施設づくりをめざしてまいります。

機能	想定規模	内容	
		機能	内容
1 エントランスホール	—	ロビー展示、交流展示含む	
2 観光案内機能	70㎡		
3 展示機能	900㎡	700㎡	常設展示室
		150㎡	企画展示室
		50㎡	子ども向け展示室、体験展示スペース
4 収蔵機能	600㎡	一般収蔵庫、特別収蔵庫、一時保管庫	
5 調査・研究機能	100㎡	研究室、資料庫(書庫)、写真室、実験室等	
6 教育普及機能	210㎡	図書室、講座室、集会室、学習室	
7 交流・サービス機能	200㎡	休憩・飲食スペース、ショップ	
8 事務・管理機能	180㎡	事務室、館長室、会議室等	
9 その他、共用部	900㎡	トイレ、給湯室、倉庫、廊下、エントランスホール含む	
合計	3,160㎡		

機能	想定規模	内容	
		機能	内容
1 ホール機能/舞台設備機能/バックヤード機能	415㎡	ホール・舞台・座席収納(~350席程度)	
		100㎡	楽屋・練習室
2 ホール機能/舞台設備機能	50㎡	バックヤード	
3 展示機能/交流機能	70㎡	展示スペース・ホワイエ	
		50㎡	事務室・ミーティングスペース等
4 事務管理機能	120㎡	倉庫	
		160㎡	トイレ、廊下等
5 共用部	160㎡		
合計	965㎡	全体での機能共有が検討可能な項目	

7. 今後の進め方

